

安価な資材を用いた忌避剤と施用方法の開発（R7～R9年度）

現状

県内ではほぼ全域でシカやノウサギによる獣害被害が発生しており、植栽後の獣害対策は必要不可欠なものとなっている。



▲獣害防護柵



▲剥皮被害被害木



▲食害被害木

課題

1. 県内の造林地で主に用いられている獣害防護柵は設置や維持管理、撤去に多大な費用と労力が掛かる。



▲防護柵の撤去

2. 比較的安価な方法である忌避剤はシカの生息密度が高い地域では効果が薄く、忌避剤が有効な地域は限られるが県内において忌避剤を用いての再造林の実績はないため、その範囲は不明瞭である。



▲忌避剤散布

3. 福井県は多雪地域のため、破損の可能性が高い防護柵よりも忌避剤による対策が望ましい。

4. 県内ではシカの生息密度が高い地域もあるため、生息密度に関わらず効果を発揮する忌避剤の開発が求められている。



**安価でより有効な忌避資材の開発
有効な施用方法の確立**

研究内容

1. 安価な材料を利用した忌避資材の開発

・副産物や残渣など忌避剤としては用いられていなかったものや効果が明らかではなかったものを利用した忌避剤の開発

材料の例

木酢液・木タール クレオソート油
ヒトデサポニン等



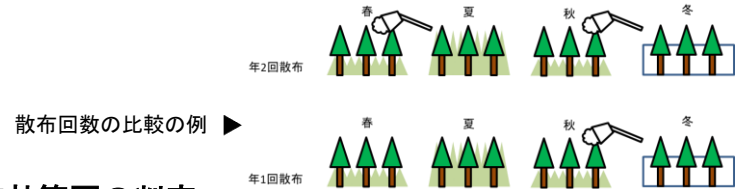
▲木酢液



ヒトデを用いた既存の資材▶

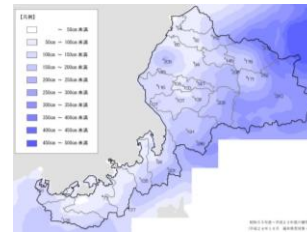
2. 有効な施用方法の開発

・年2回散布と年1回散布での食害の差を検証
・ペットボトル等を用いた散布以外の施用方法の開発

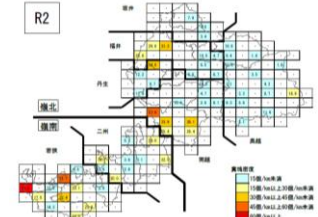


3. 忌避剤の有効範囲の判定

・シカの生息密度、積雪量、林業適地(斜度、道からの距離)によって忌避剤が有効な地域を判定する。



▲再現期間10年に相当する年最大積雪深
(福井県雪対策・建設技術研究所作成 H24)



▲R2年度シカの糞塊密度分布
(福井県農林水産部中山間農業・畜産課作成 R4)

目標および期待される効果

- 造林地における保護費用の低減
- 造林木の獣害被害の軽減
- 森林資源の循環利用の拡大